

教育研究業績書

2016年10月01日

所属：心理・人間関係学科

資格：准教授

氏名：竹内 美保

研究分野	研究内容のキーワード
高齢者福祉、介護福祉、社会福祉実習教育	ケアマネジメント、施設ケア、レジデンシャル・ソーシャルワーク
学位	最終学歴
修士（臨床教育学）、学士（文学）	武庫川女子大学大学院 臨床教育学研究科臨床教育学専攻 博士後期課程 単位取得満期退学

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
1. 介護とリハビリテーション	2012年09月～現在	本科目（短大2年次後期）は、介護とリハビリテーションの概念や対象およびその理念、介護の技法や介護予防の基本的な考え方について学ぶものである。授業では、講義では理解しにくい介護の具体的方法の学習のために視聴覚教材を活用している。また、学生の身内等で介護の経験のある方に対してインタビューを行い、介護体験の内容や聞き取りを通して学んだことをレポートまとめるという課題を出している。これにより、介護を行うことの大変さだけでなく、在宅や施設における介護方法の実際や介護職のやりがい、親への感謝等を理解することを目的としている。
2. ソーシャルワーク論ⅡB	2012年04月～現在	本科目（3年次後期）は、相談援助に関する理論と方法について理解するとともに、さまざまな事例研究やカンファレンス手法などを通してケースマネジメントによる相談援助方法を学ぶものである。3年次夏のソーシャルワーク実習において個別支援計画を作成した経験をもとに、学問的知識と現場の知見の統合を目指し、グループワークによるケアプラン作成演習（3コマ程度）を実施している。ケアプランの作成とともにパワーポイントによる発表およびプレゼンテーションの評価を行っている。また、国家試験科目であるため、テキストの内容と過去問を関連付けた授業を行っている。学生の修得状況を把握するために確認テストを行い、定期試験までに不足している知識を授業中に補えるよう工夫している。
3. ソーシャルワーク演習ⅡA	2012年04月～現在	本科目（3年次前期）は、少人数による演習を通してソーシャルワークの知識、技術、価値倫理を双方向で学ぶものである。20名以下のクラスを4～5名に分けて行うグループワークでは、面接技術習得のためのロールプレイや支援計画策定のためのアセスメント、プランニングの際に意見交換を行っている。自分の考えをグループ内で発言を行い、さらにクラス全体にグループの意見として発表する機会を設けている。
4. ケアワーク基礎	2011年02月～現在	特別学期に2年次生を対象にケアワーク基礎を開講している。本科目は、ソーシャルワーカーに必要な介護技術について、実習室を使用し体験的に学習するものである。体位変換、車いすへの移乗、歩行の介助、衣服の着脱介助、排泄介助、食事介助等の介護技術について、学生が二人一組で介護者役と利用者役になり、実際の支援方法を体験を通して学んでいる。
5. 高齢者福祉論	2010年04月～現在	本科目（2年次前期）は、高齢者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉・介護需要について理解するものである。特に介護保険制度に関する理解を求められていることから、地域の市役所、社会福祉協議会、介護サービス事業所等に出向き、地域の福祉資源の情報収集を行うという課題を出している。これにより、学生はテキストにある社会資源とともに自分の済んでいる地域の実情について理解することを目的としている。また、国家試験科目であるため、テキストの内容と過去問を関連付けた授業を行っている。学生の修得状況を把握するために確認テストを行い、定期試験までに不足している知識を授業中に補えるよう工夫している。
6. 介護概論	2010年04月～現在	本科目（2年次後期）は、介護の概念や対象およびその理念を理解するとともに介護過程における介護の技法や介護予防の基本的な考え方について学ぶものである。授業では、学生の身内等で介護の経験のある方に対してインタビューを行い、介護体験の内容やインタビューを通して学んだことをレポートまとめるという課題を出している。これにより、介護を行うことの大変さだけでなく、親への感謝や介護職のやりがい、介護の方法の実際等を理解することを目的としている。また、国家試験科目であるため、テキストの内容と過去問を関連付けた授業を行っている。学生の修得状況を把握するために確認テストを行い、定期試験までに不足している知識を授業中に補えるよう工夫している。
2 作成した教科書、教材		

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
2 作成した教科書、教材		
1. ソーシャルワーク演習ⅠB	2014年09月～現在	授業のテーマは「高齢者の権利擁護活動」である。「高齢者の虐待ケースに対するソーシャルワークアプローチ」『ソーシャルワーク実践事例集』（澤伊三男、明石書房）を使用し、演習の授業を展開するために、学生に考えさせる問題やジェノグラム、エコマップの記入用シート、事例中の場面をロールプレイさせるためにワークシートを作成した。また、高齢者虐待の対応方法（相談・通報・届出、支援の流れ）や虐待チェックリスト等、事例の理解に必要な資料を配布している。
2. ソーシャルワーク論ⅡB	2012年09月～現在	講義では、テキストを中心に授業を行うが、毎回、授業内容の範囲における重要項目をまとめてレジュメとして配布している。これにより、学生はそれらを当該試験の重要な位置づけとしてとらえ、学習目的と到達目標に連動した成績評価の際の判断材料としてとらえることができる。また、国家試験対策として必要と思われる統計資料等については、別途、資料を用意し配布している。
3. ソーシャルワーク実習指導ⅠⅡ	2011年04月04日～現在	ソーシャルワーク実習指導および実習で使用する「実習の手引」を実習指導担当教員と共同で作成した。冊子は、学生と教員、実習施設・機関に配布した。
4. 高齢者福祉論	2010年04月～現在	講義では、テキストを中心に授業を行うが、毎回、授業内容の範囲における重要項目をまとめてレジュメとして配布している。これにより、学生はそれらを当該試験の重要な位置づけとしてとらえ、学習目的と到達目標に連動した成績評価の際の判断材料としてとらえることができる。また、国家試験対策として必要と思われる統計資料等については、別途、資料を用意し配布している。
5. 介護概論	2010年04月～現在	講義では、テキストを中心に授業を行うが、毎回、授業内容の範囲における重要項目をまとめてレジュメとして配布している。これにより、学生はそれらを当該試験の重要な位置づけとしてとらえ、学習目的と到達目標に連動した成績評価の際の判断材料としてとらえることができる。また、国家試験対策として必要と思われる統計資料等については、別途、資料を用意し配布している。
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
1. 臨床教育学修士	2003年03月	
2. 社会福祉士	2000年04月	
3. 介護福祉士	1993年03月	
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
1. 『相談援助演習第2版』	共	2014年02月	弘文堂	秋山博介・谷川和昭・柳澤孝主編著 本書は、社会福祉士養成課程の新カリキュラムの「相談援助演習」に対応するテキストの改訂版（第2版）として編集されたものである。 執筆担当部分は、第3章2節「個別援助（ケースワーク）」、5節「ケアマネジメント」、10節「社会資源」の3つの項目である。
2. 『地域福祉分析論第2版』	共	2011年01月	学文社	井村圭壯・谷川和明編著 執筆担当部分「X地域における社会資源の展開」(pp.152-59)。地域福祉の条件づくり、地域福祉のニーズをめぐる社会資源、社会資源の活用、社会資源の調整、社会資源の開発、地域における社会資源の方向性の各節について執筆した。
3. 『高齢者福祉史と現状課題』	共	2010年01月	学文社	井村圭壯・相澤譲治編著 本書は、社会福祉士養成課程の新カリキュラムの「高齢者福祉論」、「高齢者に対する支援と介護保険制度」等のテキストとして編集されるものである。

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
4. 『臨床に必要な相談援助演習』	共	2008年11月	弘文堂	執筆担当部分は、「第8章 保健福祉サービスの体系」である。ここでは、まずわが国の保健福祉サービスの形成史を概観し、在宅福祉サービス及び施設福祉サービスの現状と今後の課題を述べている。 秋山博介・谷川和昭・柳澤孝主他 本書は、社会福祉士養成課程の新カリキュラムの「相談援助演習」に対応するテキストとして編集されたものである。 執筆担当部分は、第3章2節「個別援助（ケースワーク）」、5節「ケアマネジメント」、10節「社会資源」の3つの項目である。
5. 『対人援助職をめざす人のケアマネジメントーケアマネジメントを理解するLearning10』	共	2007年04月	みらい	太田貞司・國光登志子他 本書は、ケアマネジャーやソーシャルワーカーを目指す学生および実務家を対象としたテキストである。ケアマネジメント実践とは何かを論じ、実践方法を習得させることを目的としている。 執筆担当部分は、ケアマネジメント演習〔21〕高齢者のケアマネジメント事例④「閉じこもり高齢者などの介護予防」である。
6. 『臨床に必要な社会福祉援助技術演習』	共	2007年03月	弘文堂	秋山博介・井上深幸・谷川和昭他 本書は社会福祉士養成課程の「社会福祉援助技術演習」のテキストとして編集されたものである。 執筆担当部分は、以下の2節である。第3章1節「個別援助の技法」では、ケースワークの構成要素および個別援助の際の原則、そのプロセスについて執筆した。第5章第4節「ケアマネジメントからの支援方法」では、ソーシャルワークの関連技術のひとつであるケアマネジメントの技法について執筆した。
2 学位論文				
1. 「社会福祉士実習教育におけるケアワークの意義と教育方法に関する考察」	単	2003年03月	武庫川女子大学大学院臨床教育学研究科修士課程第197号	本研究は、社会福祉士養成教育の現状、ソーシャルワークとケアワーク及びケアワーク教育の実践研究を考察するとともに、筆者が行った授業内容に関して事前アンケート、事後アンケート及びレポート実施し、それらをデータ化し分析を行ったものである。今後の社会福祉援助技術現場実習指導におけるケアワーク教育上の課題は、「技術指導」「プログラム内容」「教育目的」「ロールプレイ」「効果測定と体験学習の意義」としてまとめられた。
3 学術論文				
1. 「特別養護老人ホームにおけるレジデンシャル・ソーシャルワークの概念ー社会福祉士実習教育に焦点をあてー」	単	2013年03月	武庫川女子大学文学部心理・社会福祉学科人間学研究第28号	本稿は特別養護老人ホームにおける実習プログラムの開発研究の前提である「レジデンシャル・ソーシャルワークの概念の整理」を目的としている。結論として、毎日の身辺的なケアにおける積極的介入をレジデンシャル・ソーシャルワーク実習教育の根幹におきつつ、そこでのコミュニケーション技法やケアプランの策定について学ぶことはもっとも重要な実習課題の1つであると考えられる。 頁数：11頁(pp. 21-31)
2. 「社会福祉士実習教育における実習生のコンピテンスに関する一考察」	単	2012年03月	武庫川女子大学文学部心理・社会福祉学科人間学研究第27号	社会福祉士実習（相談援助実習）における実習生のコンピテンスについて、先行研究および調査により明らかにした。実習生に対するアンケート調査の結果、実習生が実習中に何を学んだのか、この間に対しては、「基礎能力」（「積極性」「自己理解」「コミュニケーション」の向上であり、「知識」（「制度・組織」「施設分析」「援助方法」であり、「技術」（「ソーシャルワークのプロセス」「記録技法」「面接技法」）がそれぞれ実習前よりも向上していることが判明した。しかし、ここに示されたコンピテンスのように社会福祉士に求められるコンピテンスは「知識」や「技術」として目に見える「顕在的な能力」だけではなく、氷山の水面下にある目に見えない部分である「価値」の側面にも着目していく必要があると考える。 頁数：10頁(pp. 23-32)
3. 「ケアマネジメントにおけるインフォーマル・サポート・ネットワーク構築の可能性ー地域包括支援センター、社会福祉協議会へのインタビュー調査からー」（査読あり）	単	2009年03月	関西福祉大学研究紀要第12号	関西福祉大学研究紀要第12号 本研究は関西地方にあるA県B市（人口約3.2万人、高齢化率約26%）における地域ケアシステム及びケアマネジメント実践におけるインフォーマル・サポート・ネットワークの現状を把握し、B市における地域ケアシステムの構築に向けて、地域包括支援センターと社会福祉協議会の連携の方向性、新たな協働の可能性を探るものである。 頁数：9頁(pp. 243-251)
4. 「社会福祉士実習教育における学習成果の検証ー実習報告書の分析を通してー」（査読あり）	共	2009年03月	関西福祉大学研究紀要第12号	竹内美保・藤原慶二・川田素子・ほか 本研究は、本学社会福祉学部の社会福祉士実習教育における学習成果について、①2007年度の実習生が何を学んだのか、②実習先種別によって学んだ内容

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
5. 「実習教育システム構築の試みー『教育の質』が保証された実習教育の実現に向けて」(査読あり)	共	2009年03月	日本社会福祉学会『社会福祉学』2009年第49-4巻	<p>に違いがあるのかの2点を検証し、今後の課題として学生が実習で「実践力」を身につけるために大学は何をすべきかを考察するものである。 頁数：8頁(pp. 253-260)</p> <p>中村剛・井上浩・竹内美保 本研究では、実習教育におけるコンピテンシー・モデルの観点から卒業時の到達目標を示し、そこから、実習教育全体を組み立てていくことが課題とされている。本研究は、実習教育全体のシステムを組み立てる方法論としてISO9001規格の考え方を導入して行った実習教育の実践と実習教育の評価領域・項目・レベルについて検討するものである。 頁数：16頁(pp. 158-173)</p>
6. 「実習におけるケアマネジメント過程の導入ーケアプラン作成の指導的観点に関する調査結果からー」(査読あり)	単	2008年03月	関西福祉大学研究紀要第11号	<p>本研究は、社会福祉援助技術現場実習における受入れ先の現場実習指導者によるケアプラン作成の実習課題への指導的観点に関する調査を通して、現在のソーシャルワーク実習におけるケアプラン作成を目標とする実習の必要性および指導上の課題を明らかにするものである。 頁数：8頁(pp. 227-234)</p>
7. 「介護福祉の目的に関する考察」(査読あり)	単	2007年03月	関西福祉大学研究紀要第8号	<p>本研究は、介護福祉の目的概念について、介護と看護と福祉の比較から考察するものである。介護の「目的」は、例えば看護が「健康をとりもどす、あるいは治癒すること」におかれているとするならば、社会福祉の関連で言うと、「介護福祉」での「介護」とは身体的ケアにおいては、ある程度目的が同一であることが多い。しかし、介護には生活上のコントロールが行われ、相談援助も一部含まれているため介護福祉は、社会福祉と重複する部分が見受けられる。これからから介護福祉は3つのケアが混在している中間部分におかれた看護と社会福祉を「支えていく中間の存在=媒介的役割」として意義を見出すことができる。 頁数：18頁(pp. 131-48)</p>
8. 「実習教育の効果測定ー評価基準の尺度化に関する仮説的枠組みの提示ー」(査読あり)	共	2007年03月	関西福祉大学研究紀要第10号	<p>井上浩・中村剛・竹内美保・ほか 本研究は、社会福祉実習教育の効果測定を行うための評価基準を尺度化する上で、仮説的な枠組みを提示することを目的としている。まず第一章で評価基準を設ける必要性を示し、第二章で評価基準の領域を提示している。第三章では、評価領域に含まれる内容を提示した。第四章では、評価基準のレベルについて内容を記している。第五章では評価領域と評価レベルをどのように実習教育の中で実施するのかを述べている。 頁数：7頁(pp. 11-7)</p>
9. 「品質マネジメントシステムに基づく実習教育の実践と検証ー実習教育の質の確保を目指してー」(査読あり)	共	2006年03月	関西福祉大学研究紀要第9号	<p>井上浩・中村剛・竹内美保・ほか 本研究は、社会福祉援助技術現場実習において、国際標準規格ISOの概念を用いることで実習教育のあり方を見直し、品質マネジメントという方法が実習教育の質の確保にどのように影響するのかについて考察することを目的としている。また、帳票を用いた結果、どのような変化が見られたかをまとめ、ISO規格に基づいた実習教育が有効である点を述べている。 頁数：12頁(pp. 89-100)</p>
10. 「社会福祉援助技術現場実習における『ケア』体験の現状についてー関西福祉大学社会福祉学部の実習生へのアンケート結果からー」(査読あり)	共	2006年03月	関西福祉大学研究紀要第9号	<p>竹内美保・與那嶺司 本報告は、北星学園大学社会福祉学部による調査報告を基礎として、関西福祉大学社会福祉学部の学生を対象に同様のアンケートを実施し、分析結果をまとめたものである。結果は、本学の実習内容はソーシャルワーク実習ではなく、ケアワーク実習が中心であることが示され、加えて学生からは実習前に「ケア」に関する一定の知識や技術を学んでおく必要があるとの回答が多かった。 頁数：19頁(pp. 199-217)</p>
11. 「ケアワーク学内実習における教育方法の諸課題2ーレポートの意味分析を通してー」(査読あり)	単	2005年03月	関西福祉大学研究紀要第8号	<p>本研究は、ケアワーク学内実習を受講した学生のレポートを意味分析し、そのプロセスツリーを紹介する。カテゴリーをさらに分類した結果、学生は、介護場面のロールプレイを行うことにより、ソーシャルワーカーに必要とされる基本技術であるコミュニケーション技法を学ぶきっかけとなることがわかった。これらの意味分析の結果を参考として、次年度のケアワーク学内実習のプログラムの検討を行うものである。 頁数：11頁(pp. 185-195)</p>
12. 「社会福祉士実習教育におけるケアワークの概念規定の検討」(査読あり)	単	2004年03月	関西福祉大学研究紀要第7号	<p>本研究は、社会福祉士実習教育の現状、ソーシャルワークとケアワークとケアワーク及びケアワーク教育の実践研究、概念規定の先行研究を土台としなが</p>

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
				らケアワークの概念規定の検討を試みたものである。 ケアワークはソーシャルワークに近い援助技術としてソーシャルワークの掲げる実践（知識・技術・価値）や看護の基礎技術の要素を併せ持っていることから、経験的な仮説を4点示した。結論としてケアワークを社会福祉援助技術の一つとして捉えている。 頁数：15頁(pp. 175-189)
その他				
1. 学会ゲストスピーカー				
2. 学会発表				
1. 特別養護老人ホームにおけるソーシャルワーク実習プログラム開発に向けての課題－ケアワーク体験の有用性と実習生のコンピテンスの観点から－	単	2011年10月	日本社会福祉学会	特別養護老人ホーム（以下、特養）における実習プログラムの開発に向けて1つはレジデンシャル・ソーシャルワークの機能の明確化、2つには、どのようなコンピテンスの獲得を目指して実習が行われるべきなのかを検討する必要性がある。入所施設におけるソーシャルワーク実習プログラムの開発にあたり、特に「ケアワーク体験の有用性」と「実習生のコンピテンス」の観点から検討を行っている。（ポスター発表）
2. 「『実習教育の質』を評価するための枠組みと項目－ドナペディアン・モデルを参考にして－」	共	2008年10月	日本社会福祉学会	中村剛・井上浩・竹内美保 本報告では、実習教育の質を確保するための先行研究を統合する形で整理する枠組みとして、ドナペディアン・モデルを参考にして、「実習教育の質」を評価するための枠組みと項目を提示している。
3. 「社会福祉実習教育評価基準に関する一考察」	共	2007年09月	日本社会福祉学会	井上浩・中村剛・竹内美保・ほか 本研究は、実習教育の効果測定を行うための評価基準を尺度化する上で、仮説的な枠組みを提示することが目的である。評価基準には領域とレベルがある。領域は福祉の専門性、福祉の素養があり、この二つの領域それぞれに、評価をしていく尺度が存在している。
4. 「実習教育における『教育の質』マネジメントシステムの構築－IS09001規格を参考にして－」	共	2006年10月	日本社会福祉学会	中村剛・井上浩・竹内美保・ほか 実習教育における「教育の質」を確保するために2005年から実習教育のマネジメントシステムの構築として、「実習教育の質」を確保する体系的かつ標準化された教育システムの構築に、IS09001規格のマネジメントの考え方が有効であることが示唆された。
3. 総説				
4. 芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
1. 介護セミナー・ランチミーティング「介護と自身の老後」	共	2015年10月29日	武庫川女子大学女性研究者支援センター育児・介護部門	介護相談員滝井エミ子氏とともに「介護と自身の老後」のテーマで、教職員対象のランチミーティングを実施した。
2. 第5回育児・介護セミナー	共	2014年10月16日	武庫川女子大学女性研究者支援センター育児・介護部門	第5回育児・介護セミナー「認知症の基本知識と家族の接し方について」（講師：阪和第一泉北病院認知症疾患センター長 三木哲郎氏）における企画、運営に参画した。
3. 第4回育児・介護セミナー	共	2014年07月26日	武庫川女子大学女性研究者支援センター育児・介護部門	第4回育児・介護セミナー「NHK人気講師から学ぶ楽ラク介護のコツ～力を引き出す介助術～」の企画、運営に参画し、学内の教職員および学生に対して、日常生活動作における介助の方法についての講義と実技を実施した。また、講師の福辺節子氏による技術指導のアシスタントを担当した。
4. 武庫川学院ワークライフバランスガイドブック	共	2014年06月	武庫川女子大学女性研究者支援センター	文部科学省科学技術人材育成費補助金女性研究者研究活動支援事業の一環として女性研究者支援センター育児・介護部門のメンバーとともに企画、作成を行った。主に介護分野のページを執筆した。
5. 「自立支援型ケアマネジメントの確立を目指して－ケアマネジメントの視点の分析－」	共	2014年03月22日	第13回近畿介護支援専門員研究大会大阪大会	兵庫県介護支援専門員協会調査研究委員会の小林治子氏発表のラストオーダーを務めた。本研究は、ケアマネジャーが自立に向けたケアマネジメントができていくのかを検証するものである。具体的には、自立支援に繋がった事例を通して、ケアマネジャーの思考プロセスを振り返り、その支援の視点を明らかにした。
6. 第2回育児・介護セミナー	共	2014年01月21日	武庫川女子大学女性研究者支援センター育児・介護部門	第2回育児・介護セミナーにおける介護セミナー「ご家族の介護で困っていませんか？～介護保険サービスの上手な利用方法について～」を介護相談員の滝井エミ子氏とともに介護サービスに関する情報提供

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
7. 介護講習会	単	2011年11月	武庫川学院偕和会	およびワークショップを行なった。 2011年11月11日～26日の3日間、偕和会会員に向けて介護講習会を行った。 1回目：介護サービスの利用の仕方、介護者の心づもり、2回目：介護の方法①（姿勢・体位変換、車いすでの移動、移乗）、3回目：介護の方法②（食事介助、着替え、おむつ交換）
8. 介護の基本を学ぼう	単	2011年11月	武庫川学院オープンカレッジ秋学期	2011年10月20日～11月17日の4日間、オープンカレッジの受講生に対して講義と実技指導を行った。 1回目：介護保険サービスのしくみと利用方法、2回目：高齢者の理解とコミュニケーション、3回目：介護技術の基礎①、4回目：介護技術の基礎②（実技）
9. 「ケアマネジメント実践における小規模多機能型介護施設を拠点とした地域づくりの可能性を求めて－」	単	2010年12月	大阪府保険医協会訪問介護のための医療セミナー企画会議	ケアマネジメント実践が成果を上げるためには、地域におけるインフォーマルサポート、ネットワークが中心となる課題であり、不可欠な機能である。小規模多機能型施設を拠点とする地域づくりとケアマネジメント実践のあり方について、大阪府保険医協会に所属するヘルパー・ケアマネジャーに対して話題提供を行った。
10. 介護講習会	単	2010年11月	武庫川学院偕和会	2010年11月12日～19日の2日間、偕和会会員に向けて介護講習会を行った。 1回目：介護サービスの利用の仕方、介護者の心づもり、2回目：基本的な介護の方法（着替え、おむつ交換、体位変換）
11. 「ケアマネジメント実践におけるインフォーマルセクターの支援について」	単	2010年08月	大阪府保険医協会訪問介護のための医療セミナー企画会議	ケアマネジメント実践におけるインフォーマルセクターの地域ケアシステムの構築に向けた地域包括支援センターと社会福祉協議会の連携の方向性、新たな協働の可能性について、大阪府保険医協会に所属するヘルパー・ケアマネジャーに対して、研究成果をもとに話題提供を行った。
12. 福祉用具専門相談員指定講習会	単	2010年03月	(財)総合健康推進財団	福祉用具専門員相談員指定講習会において、介護に関する講義と実技指導を行った。
13. 訪問介護員養成研修	単	2010年02月	関西福祉大学附属地域センター	訪問介護員養成研修2級課程において、介護に関する講義および実技指導を行った。
14. 「ケアマネジメント実践におけるインフォーマルサポート体制の構築について」	共	2009年09月	関西福祉大学付置地域社会福祉政策研究所「平成20年度事業実施研究プロジェクト概要報告⑧」	関西福祉大学地域社会福祉政策研究所の研究プロジェクトに採択された。広島県福山市の小規模多機能型介護施設（以下、SM）におけるケアマネジメント実践の現況調査の報告書である。SMにおけるケアマネジメント実践を調査し、それらを手がかりとして、SMを拠点とする地域づくりとケアマネジメント実践のあり方を検討するものである。途中経過の概要について報告を行った。（共同研究：竹内美保・藤原慶二・佐藤哲郎）
15. 「介護予防ケアマネジメントにおけるインフォーマルセクターの支援について－地域包括支援センターと社会福祉協議会の新たな協働関係を求めて」	単	2008年09月	関西福祉大学付置地域社会福祉政策研究所「平成19年度事業実施研究プロジェクト概要報告⑩」	関西福祉大学地域社会福祉政策研究所の研究プロジェクトに採択された。本研究は、①大学周辺の地域において要支援者等が利用しているインフォーマルセクターの社会資源の現状、②利用者および家族がもつ潜在的なニーズ、③介護予防ケアマネジメントに必要な社会資源を探る。の3点である。調査対象は兵庫県内B市である。調査結果をもとにB市におけるインフォーマルサポートシステムの現状についてまとめた。
16. 大学連携「ひょうご講座」	単	2007年10月	ひょうご大学連携事業推進機構主催	大学連携「ひょうご講座」10回シリーズにおける第5講「高齢者の介護サービスシステム」の講義（90分）を担当した。本講義は、わが国の高齢者福祉の制度とサービスについて、その歴史を辿りながら戦後から介護保険制度制定までの変遷を見ていくとともに、高齢者が地域で自立的な生活を維持するために必要なサービスシステムとは何か、について講義した。
6. 研究費の取得状況				
1. 学内奨励金	単	2011年	武庫川女子大学研究支援室	「ソーシャルワーク実習におけるケアワークの有用性に関する研究」
2. 平成20年度事業実施研究プロジェクト	共	2008年	関西福祉大学付置地域社会福祉政策研究所	「ケアマネジメント実践におけるインフォーマルサポート体制の構築について－小規模多機能型介護施設を拠点とした地域づくりの可能性を求めて－」（共同研究：竹内美保・藤原慶二・佐藤哲郎）
3. 平成19年度事業実施研究プロジェクト	単	2007年	関西福祉大学付置地域社会福祉政策研究所	「介護予防ケアマネジメントにおけるインフォーマルセクターの支援について－地域包括支援センターと社会福祉協議会の新たな協働関係を求めて－」
学会及び社会における活動等				
年月日	事項			
1. 2015年04月～現在	宝塚市男女共同参画推進審議会委員			

学会及び社会における活動等

年月日	事項
2. 2013年01月～現在	兵庫県介護支援専門員協会調査研究委員会
3. 2011年08月～現在	大阪府保険医協会ケアマネ・ヘルパー事例検討会
4. 2008年04月～現在	日本ケアマネジメント学会会員
5. 2007年4月～現在	日本福祉図書文献学会
6. 2006年04月～2010年03月	相生市地域包括支援センター運営協議会委員
7. 2006年04月～2010年03月	相生市介護保険審議会委員
8. 2002年04月～2010年03月	兵庫県介護福祉士会西播磨ブロック委員
9. 2001年04月～現在	日本社会福祉学会会員
10. 2001年04月～2003年03月	(社) 日本介護福祉士会 介護相談員
11. 2000年06月～現在	(社) 日本社会福祉士会会員
12. 2000年04月～2002年03月	兵庫県介護福祉士会理事
13. 1998年04月～現在	日本介護福祉学会会員
14. 1993年04月～現在	(社) 日本介護福祉士会会員